

令和3年度Sport in Life推進プロジェクト  
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)

# 児童のインフルエンサー就任による 自身及び多世代のスポーツ実施率向上プロジェクト

令和4年2月18日

株式会社つくばウェルネスリサーチ



Sport in Life

# 令和3年度 Sport in Life推進プロジェクト (スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験) 事業報告概要

代表団体

株式会社つくばウエルネスリサーチ

事業タイトル

児童のインフルエンサー就任による自身及び多世代のスポーツ実施率向上プロジェクト

構成団体	埼玉県本庄市、筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター、(株)アシックス
対象テーマ	①子供
実証フィールド (地域)	埼玉県本庄市

## 事業内容サマリ

子どもたちがスポーツの楽しさを知り、さらに、その楽しさ・必要性を親や祖父母に伝え、スポーツ実施率向上に繋げることを目的としたプロジェクト。具体的には、埼玉県本庄市旭小学校の低学年の児童113名を対象にインフルエンサー（キッズ健幸アンバサダー（以下、KA））の養成を行い、その効果を実証した。

プロジェクトの特徴は、①教育委員会と連携して授業の一環で実施したこと、②オリンピックによる指導、③児童から親・祖父母のスポーツ実施を促す仕掛け。この結果、児童はKAの役割を理解し、親・祖父母に対し健康情報を伝え、一緒に運動に取り組むことが実証された。

## 本実証実験のターゲット

- ①スポーツ実施無関心層も含む低学年児童  
本庄市立旭小学校1年から3年の全員  
：1年生：2クラス（40人）  
：2年生：2クラス（40人）  
：3年生：1クラス（33人） 計113人
- ②キッズ健幸アンバサダーとなる児童の親
- ③キッズ健幸アンバサダーとなる児童の祖父母

## ターゲットのスポーツ実施を妨げている要因

児童のスポーツ実施を阻害している要因は多様にあるが、本事業では下記の3点の課題に焦点をあてた。

- ・楽しみながらスポーツの力の理解、及び多様な動きを身につけることができる機会を提供できる人材が少ない
- ・保護者が子どもに運動、スポーツを実施させる必要性を感じていない
- ・土日にスポーツを実施しない子どもたちが一定数存在する

## 事業の実施概要

- 仮説① 児童にスポーツができることへの憧れや楽しさを感じてもらうこと
- 仮説② スポーツによる生涯の健康に大きく寄与することへの理解を高めること
- 仮説③ KAが親や祖父母にスポーツの楽しさや重要性を伝えるプロセスが、自身のスポーツ実施、親・祖父母のスポーツ実施率に寄与すること

### カリキュラム・コンテンツ開発

### 本庄市立旭小学校でKA養成講座を実施

### 授業として、スポーツ実施率を高める インフルエンサー就任講座の実施

(インフルエンサーをキッズアンバサダー(KA)と命名)

### KAとしての役割

- ・親、祖父母へスポーツの重要性を伝える
- ・親や祖父母と一緒にスポーツを実施

### 児童・成人・高齢者のスポーツ実施率の向上

### KA養成講座の実施

#### ①健康におけるスポーツの力と KAの使命と役割

久野 譜也  
筑波大教授、博士(医学)



#### ②速く走る秘訣

朝原 宣治  
北京オリンピック2008  
陸上男子4x100mリレー銀メダル



#### ③ボールをうまく操ろう

安藤 梢  
なでしこジャパン2011 W杯優勝  
ロンドンオリンピック2012銀メダル  
筑波大助教、博士(体育科学)



#### ④相手の心に火をつける話し方

塚尾 晶子  
つくばウエルネスリサーチ取締役  
保健師、博士(スポーツウエルネス学)



# 令和3年度 Sport in Life推進プロジェクト (スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験) 事業報告概要

代表団体

株式会社つくばウエルネスリサーチ

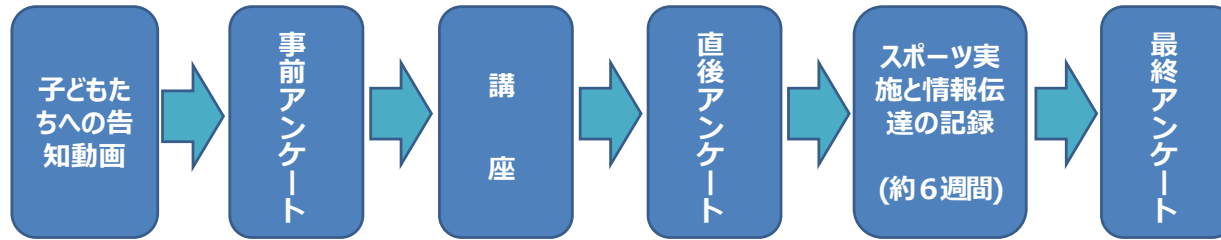
事業タイトル

児童のインフルエンサー就任による自身及び多世代のスポーツ実施率向上プロジェクト

## 効果検証の方法と結果

### ●効果検証方法

KA就任前後の児童のスポーツ実施率の状況、情報提供の状況（誰に、どのくらい等）、情報提供者のスポーツ実施率等について、児童113人を対象に事前・講座直後、事後でアンケート調査を行った。

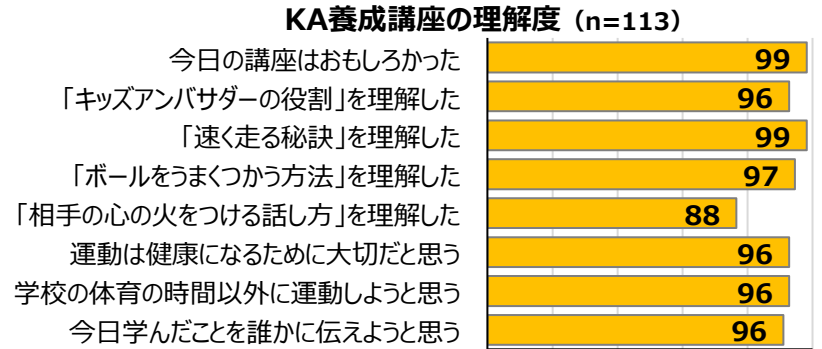


### ●結果

#### 【KA講座の理解度】

・講座の理解度は100%に近く、また、オリンピックの凄さを体感し、憧れをもつことの重要性が示された。

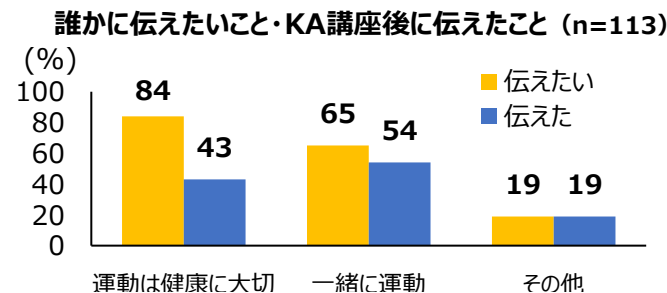
・KAとしての役割、運動の必要性、運動の実施に対する理解も96%と高い割合を示した。



#### 【KAの役割の遂行】

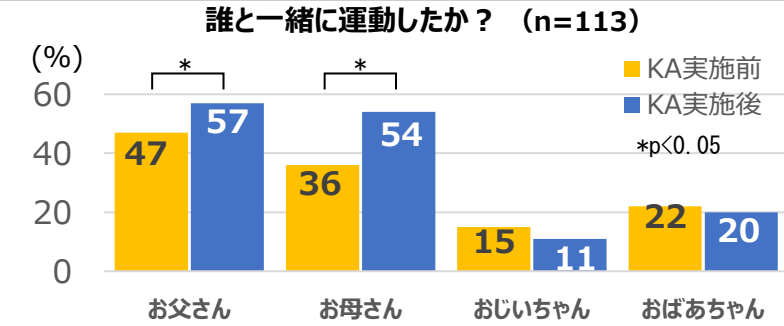
・KA講座により、児童から親・祖父母に対し、運動の大切さを伝えたいという、高い意欲が確認された。

・そして、約半数の児童がKA役割として、情報を伝え、家族と一緒に運動を実施した。



・運動の大切さを家族に伝えた結果、講座前後で「お父さん」・「お母さん」と一緒に運動する割合が増加した。

・また、情報を受けた家族からは、運動に対する意識が変わったという意見が多く挙げられた。

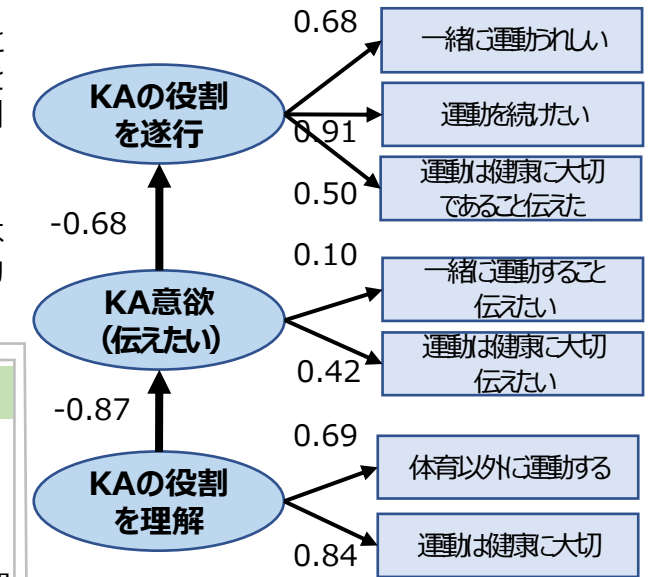


## 結果に基づく要因の分析（仮説検証）

・児童がKAの役割を理解することで、KAとして運動の大切さを伝えたいという意欲を醸成し、最終的にKAが果たすべき役割を遂行することに繋がった。

・カリキュラムとして、一過性のイベントではなく、KA役割を日記を通じて児童の活動を支援したことが効果的であった。

## KA効果の因果構造



## 今後の展開

### ■事業継続や横展開に向けたポイント・課題

- ① 首長・教育委員会への理解促進
- ② 児童への教育経験が豊富な講師の確保
- ③ 全国で実施するための運営事務局の設置

### ■次年度以降の事業継続、横展開の計画

既に、東北から九州まで10自治体以上から、KA養成の希望を受けている。そのため、全国レベルで実施できる体制（指導者と事務局）を構築させ、児童・成人・高齢者のスポーツ実施と健康度の向上に寄与するプロジェクトを目指す。